

9月25日 マルコによる福音書14章1~9節 今日の説教から

説教題：「わたしの賜物を捧げます」

先日、岩手地区の教師会の中で、有志で集まって読書会を始めることになりました。そこで、選ばれたのが「尊厳のリーダーシップ」という、ハーバード大学の教授で心理学者の方によって書かれた本です。私たちは、一人一人が尊厳を持つ、かけがえのない存在です。私たち一人一人が、何かをすることによって価値があると考えられるのではなく、ただその個人であることすでに価値ある存在である、それをこの本では「尊厳」という言葉によって説明をしています。

この本で語られている尊厳というものについて、裏面の聖書箇所の下に10の要素としてまとめられていたものを記していますので、そちらをご覧ください。

ここに挙げられている「尊厳を尊重するための10の要素」を大切にすることによって、私たちは相手の尊厳を尊重することが出来ます。この本では心理学という立場で尊厳というものを理解しましたが、私たちは御言葉によって、イエス様によって私たちが持つ尊厳について教えられています。私たち一人一人のことを神様が愛してくれている、だからこそ私たち一人一人は尊重すべき価値ある存在である。そのことを聖書から教えられています。富める者も貧しいものも、身分の高い人も低い人も、すべての人が神様の前では同じく価値ある存在であるということを、私たちは教えられているのです。それは確かに、私たちに最初から与えられている大きな「賜物」なのではないでしょうか。

今日の聖書箇所では、有名な「ナルドの香油」をめぐる物語が記されています。イエス様の十字架を目前にして、自分の出来ることを全力をもって行った、その「賜物」を生かした女性マリアの業がそこには記されています。

マリアが、「今できる最大限の事」をイエス様のために行ったという事、それがイエス様の十字架と埋葬に対してなされた準備であることを理解していたイエス様は、高価な香油を惜しむことなく注いだマリアのことを止めることはありませんでした。自分がもつ賜物をすべて発揮してイエス様のために行動したその行いに対して、イエス様は「あなたの行いは世界中どこでも語り継がれる」という驚くべき言葉によって尊重の姿勢を示しました。

高価なナルドの香油も、壺に仕舞われたままでは何の意味も持ちません。私たちが神様から頂いている多くの賜物も同様です。それを私たちが自分のものにしての間は、何もそれ以上の力を持ちません。使わないことで安心は生まれるかもしれませんが、それ以上にはならないのです。ただ、全力をもって神様のために用いたその時、そこには神様の豊かな力によって驚くほどのことが起きることを私たちは知っています。

それは特に、教会建築という形で私たちには示されることがあります。時に私たちに襲い掛かる災害によって、教会の建物が失われる事があります。もし、教会の建物がなくなっても、私たち一人一人の信徒によってイエス様を頭とした教会となることが出来ますから、決してその教会そのものが失われることはありません。ただ、形ある教会は、そこにあるだけで私たちの揺らぎやすい心を支えてくれるものでもあります。それは教会に集う私たちだけではなく、同じ土地で歩む隣人の方々にとっても同様です。

教会を建てるという事、建て替えるという事は、私たち一人一人の力だけでは決して叶えることの出来ない、とても大きな業です。私たちの業を種として、豊かな実りとさせてくれるのが、神様の大きな業なのです。私たち一人一人の業は、私たちの賜物は、それぞれは決して大きくないのかもしれませんが、しかし、それが束ねられて一つの教会となったその時、イエス様を頭として私たちは大きな実りへと導かれていくのです。その大きな喜びの中で、今週一週間の、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：マルコによる福音書 14 章 1～9 節

- 1:さて、過越祭と除酵祭の二日前になった。祭司長たちや律法学者たちは、なんとか計略を用いてイエスを捕らえて殺そうと考えていた。彼らは、「民衆が騒ぎだすといけないから、祭りの間はやめておこう」と言っていた。
- 3:イエスがベタニアで重い皮膚病の人シモンの家において、食事の席に着いておられたとき、一人の女が、純粋で非常に高価なナルドの香油の入った石膏の壺を持って来て、それを壊し、香油をイエスの頭に注ぎかけた。そこにいた人の何人かが、憤慨して互いに言った。「なぜ、こんなに香油を無駄遣いしたのか。この香油は三百デナリオン以上に売って、貧しい人々に施すことができたのに。」そして、彼女を厳しくとがめた。イエスは言われた。「するままにさせておきなさい。なぜ、この人を困らせるのか。わたしに良いことをしてくれたのだ。貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるから、したいときに良いことをしてやれる。しかし、わたしはいつも一緒にいるわけではない。この人はできるかぎりのことをした。つまり、前もってわたしの体に香油を注ぎ、埋葬の準備をしてくれた。はっきり言うておく。世界中どこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。」

「尊厳を尊重するための 10 の要素」

1. アイデンティティを受け入れる：人と接するときには相手を自分よりも上に・下に見ない。偏見や先入観を持たずに接し、相手の人種・宗教・ジェンダー・階級などを受けとめる。
2. 仲間に迎え入れる：どんな関係性でも、人がその交わりの一員であると実感できるようにする。
3. 安心できる場をつくる：身体的に・精神的に安心を感じて、自由な自己表現ができる場を作る。
4. 存在を認める：全力で相手に関心に向け、理解しようと努める。その人の経験や関心事に注目する。
5. 価値を認める：人の能力、努力、配慮、支援などに対して感謝と評価を惜しまない。
6. 公正に扱う：人を公平に扱い、ルールや法律に従って平等に扱う。
7. 善意に解釈する（疑わしきは罰せず）：相手を信頼できる存在として接する。
8. 理解しようと努める：相手を理解するために積極的に耳を傾ける。
9. 自立を後押しする：相手が自分のために行動して、未来に希望と可能性を感じられるように力づける。
10. 言動に責任を持つ：自らの行動に責任を持つ。相手の尊厳を侵害した場合には謝る。害を与える行動を改める姿勢を示す。

(ドナ・ヒックス著『Dignity』、『〈尊厳〉のリーダーシップ』より)